

# 令和元年度 学校評価結果報告書

学校法人いづみ学園  
砂川第二幼稚園

当園ではこの度、令和元年度の砂川第二幼稚園学校評価として、教職員での自己評価及び学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や日々の教育内容そして園運営の状況を振り返ることで、自分たち自身そして園全体を見つめ直す機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、職員一同で話し合うことにより、教育活動の成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価及び学校関係者評価の結果を真摯に受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## I. 教育目標

園是「あかるく・すなおに・すこやかに」を教育目標に掲げ、整えられた環境の中で教育を行い、集団生活で子ども達一人一人の発達に応じた主体的活動を通して総合的に指導をし、個性を重んじ、身も心も健全にのびのびと発達させて美しい性情を培い、ご家庭の教育と相俟って小学校教育を受けることのできる様に基礎をつくります。

## II. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検・自己評価を実施することによって、教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

- \*園児自らがよく考え、行動できる力を養う
- \*教職員の協力や連携体制を強化する
- \*災害発生を予測した防災対策を強化する

### Ⅲ. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況	
1	教育方針・目標	教育目標が反映されるよう保育目標を定め、園の方針や目標について、保護者の理解を得るよう取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間、月、週ごとに学年別の保育目標を定め、その目標を達成するための活動などを「園だより」「学年だより」に載せて、保護者の方にお伝えしている。</li> <li>・今後も、子どもの様子や園全体の様子などを保護者の方にお伝えする機会を充実させると共に、保護者の悩みや、相談を聞き話し合い、園と保護者との相互理解を深めていけるよう検討する。</li> </ul>
2	教育課程の編成	教育目標である「明るく素直に健やかに」が日々の教育活動に反映されるようそれらに各領域に示すねらいや内容を結びつけて教育課程を編成していく。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「人間関係」の内容である「他の人々と親しみ、支え合って生活する為に思考力・自立心を育て、人と関わる力を養う」「世界に通用する大人となる」ということに重点を置いて教育目標を達成する基盤としている。</li> <li>・今後、教育課程が一人一人の子どもの発達に反映されているか、また現代の社会状況に応じた指導計画が作成されているか、各時期にふさわしい細やかな保育がなされているか、教職員間で話し合い見直していく。</li> </ul>
3	指導計画の作成と評価	教師間で互いの保育について話し合い、評価・反省をして次の保育に生かしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長、先輩教諭からの助言や評価を受けて、それらの意見を取り入れて自身に生かしている。</li> <li>・年間指導計画、週案を作成する際にはその年の実態に応じた内容となっているか学年を越えて話し合い、保育の向上に向けて取り組んでいる。</li> <li>・今後さらに、保育の向上に向けた教職員間の話し合い・意見交換・情報共有の機会を充実させていく。 (指導案の反省、クラスの状況報告など)</li> </ul>
4	教育環境の構成	幼児の発達段階に即した遊具や用具、素材などを用意している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農園で旬の野菜や果物を収穫し、クッキングに用いたり、おやつにいただいたりすることで、収穫の喜びを味わい、食物への感謝の気持ちの大切さを教えている。</li> <li>・今後も、自然物を使った遊びの素材を増やしていく。</li> <li>・ボール等の運動遊びの遊具、絵本、知育玩具などのさらなる充実を検討していく。</li> <li>・その日の計画、具体的な内容をイラストなどを入れながらわかりやすく掲示し、いろいろな活動に興味を持って取り組めると共に予測をたてて行動できるようにしている。</li> <li>・異年齢との関わりが増え、思いやる・助け合う気持ちの育みが見られる。</li> </ul>

5	指導とかかわり	<p>幼児の気持ちに共感しながら、一人一人の思いを把握し、良さを認め、褒めてあげることで、目標を持たせ、自信をつけるようにしている。自ら考え、工夫することができるよう見守る。年齢や発達に応じた関わり方をしている。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日全員とスキンシップを交わし、安心して園生活を送れるよう声掛けをしている。</li> <li>・当番活動を通してお互いの存在の必要性に気づき、人の役に立つことの喜びにつなげる。</li> <li>・子どもたちの思いや考えを聞き、自信をもって行動できるように見守る。</li> <li>・年齢に応じた絵画制作、教材、体力測定などを用いて、発達段階にあった援助をするように務めている。</li> <li>・一人一人の個性や良さを伸ばし、それぞれの目標が達成できるよう援助している。</li> <li>・感情ではなく思いやりのある教育者としての言葉かけを、より意識するように心掛ける。</li> </ul>
6	教職員同士の協力・連携	<p>幼児について常に教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児のことについて、教師間での話し合いを密に行い、アレルギー等の健康面については職員全員が把握し、情報共有に努めている。</li> <li>・その場で配慮が必要な時には、担任関係なく近くにいる教師が素早く対応している。</li> <li>・保育に関して、一人で悩みを抱え込まないよう教師間でお互いに相談し易い環境作りを心掛けている。</li> </ul>
7	研修・研究への取組み	<p>配慮が必要な幼児に対する保育のあり方について、専門機関と連携を図りながら、研修研究を行っている。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮が必要な幼児に対する配慮の仕方・接し方などについて、外部研修や書籍などを通して学んでいる。</li> <li>・必要に応じて専門機関に相談する等、より専門的な知識を得られる様取り組んでいる。</li> </ul>
8	安全衛生への配慮	<p>清潔にすることの必要性を理解し、正しいうがい手洗いの仕方を具体的に示している。感染症についての様々な知識を深める。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい手洗いやうがいの習慣が身に付くようポスター掲示や紙芝居の使用、定期的に正しいうがい手洗いの方法を確認している。</li> <li>・感染症が出た場合の対策、早期終息への対応を再確認し、正しい方法を学んでいる。</li> <li>・感染症マニュアルを整備し、教職員間で理解し合うと共に、保護者の方にも配布し共通理解を持てるよう取り組んでいる。</li> <li>・感染症等が流行する時期に合わせて、消毒液を使用し、感染防止への意識を高めるよう取り組む。</li> </ul>
9	安全管理体制の整備①	<p>自然災害発生時の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいる。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に避難訓練を行い、緊急時対応手順の理解を園児・保育者共に熟知しておくよう取り組んでいる。</li> <li>・登降園時に災害が発生した場合の対処方法も、定期的に確認している。</li> </ul>

10	安全管理体制の整備②	事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて、教職員間で話し合う仕組みが機能している。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 毎日の掃除をする中で、危険なところを意識・確認・改善するようにしている。</li> <li>• 遊具の下に安全マットを敷き、鉄棒やジャングルジムで遊ぶ時は子ども達から目を離さないようにするなど、安全に遊べるための配慮をしている。</li> <li>• 定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を強化する。</li> </ul>
11	安全管理体制の整備③	施設のハード・ソフト両面から、適切な防犯体制を整えている。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 防犯ベルを設置し、門の施錠、来園者はモニター付きインターホンで確認等防犯体制を整えている。</li> <li>• 今後は、専門機関との連携を通して、不審者侵入時の対応手順についての知識を深める。</li> </ul>
12	安全管理体制の整備④	児童虐待の発見やその対応等についての手順や方法を理解する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 登園時に視診を行い、衣服や身体の衛生状態・子ども達の様子を確認するようにしている。</li> <li>• 児童虐待について、外部研修で学んだり専門機関と連携をとる等し、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。</li> <li>• 見た目だけでなく情緒面でも虐待がないか注視している。</li> </ul>
13	保護者への協力と支援	保育参観や懇談会などを開き、子どもについて、保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得るよう取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育参観や個人懇談を通して、園での様子やご家庭での様子を話し合い、共通理解を持てるように取り組んでいる。</li> <li>• 個人懇談会以外にも、日々の出席ノートや電話連絡、また連絡票を活用して、保護者の方と連携がとれる様にし、保護者が相談しやすい雰囲気作りを心掛けている。</li> <li>• 保護者の協力が必要な場合は、具体的な協力のあり方について話しあっている。</li> </ul>

#### 【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

## IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成・評価の充実	指導計画が幼稚園教育要領に沿った物で、それぞれの発達の時期に必要な経験を長期的に見通し、一人一人の子どもの発達に反映され、幼児自らが意欲を持って取り組める計画であるかを再確認する。また、地域や現代社会の実態に応じた指導計画が作成されているか見直しを行う。
2	保育の質の向上	保育の向上に向けた教職員間の話し合い・情報共有の機会を充実させていく。指導案の確認やクラスの状況などを学年を越えて共有し合う。
3		研修に積極的に参加し、知識などを学ぶとともに、一人一人の質の向上を目指し、日々努力・研究に努め、現場で実践できるように取り組む。
4	保育環境の充実	さまざまな思いやイメージなどがしやすい遊具や材料などのさらなる充実を検討していく。季節の変化を感じ、自然物や音楽教材にふれる場を増やし、情操教育に必要な環境を充実させる。
5		園児たちのたての繋がりを大切にし、異年齢による関わり方を楽しめるような活動など、工夫した取り組みを一層充実させていく。
6	保護者との連携の強化	ご家庭におけるお子様とのかかわり方や教育方針を把握し、その点を踏まえての指導、子どもたちの理解を深めていく。
7	防災対策の強化	避難訓練を実施することで、全員で避難経路や手順を確認しあい、災害発生時には、スムーズに行動できるようにする。今後は、登園・降園時に地震が発生した場合のマニュアルの保護者への周知を、より確かな物にしていく。
8	安全管理体制の強化	感染症等が流行する時期に合わせて、保護者の方にも予防対策などをお伝えし、意識を高めるよう取り組む。
9		定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を強化する。
10		専門機関との連携を通して、不審者侵入時の対応手順についての共通理解を深める。
11		児童虐待について、外部研修や専門機関と連携をとるなどし、発見のポイントや具体的な対応方法などの理解をさらに深める。

## V. 学校関係者の評価

現代社会に必要な知識と思考力をつけられる保育を志し、一人一人に合った、丁寧な保育と言葉掛けをより一層意識するよう努めてほしいと思います。